

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400038		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム玉野 (北ユニット)		
所在地	玉野市田井1丁目6-19		
自己評価作成日	平成22年5月17日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3390400038&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成22年5月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家(メディカル・ケア・サービス株式会社)は、全国120カ所のG・Hを展開させて頂いており、スケールメリットを活かしたノウハウの蓄積とそのフィードバックを行っています。運営推進会議等でご家族様または外部からのお客様に外観が暗いイメージがあるとよく言われますが、中に入ると天窓からの明かりも入り、とても明るく開放的でイメージと違いましたと言って下さいます。ご入居様も入居され何年も経ちますので、一人ひとりのADL低下に合わせたケアにスタッフも日々力を入れています。スタッフ全員忙しい業務の中(うるさいくらい)毎日明るく元気に仕事に励んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療と介護に関する事業展開をしている会社が母体となり、関西地域から中国・四国・九州にグループホームを開設して認知症高齢者の生活を実践している。最近岩国に新たにホームが出来、このホーム長が岡山、岩国、高松の3つのグループホームを統括するようになった。そしてホームの日常の運営責任者に副ホーム長が就任し、ケアマネジャーの資格を持った計画作成担当者、以前からこのホームに居たユニットリーダーを中心に新たな体制が整った。昨年ホームの名称も変わり、母体の会社が運営するグループホームとしてこの玉野市の中心で定着していくことになった。認知症の人が安心してここが自分の居場所として暮らせるよう、そしてグループホームとしての特長を発信できるホームに育っていくことを期待して見守りたい。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	MCS開設時から作られているもので、スタッフには理念の意味を「道しるべ・反省時の為に」ある物と説明しています。	「その人らしい生活ができる支援」「親切なサービス」「地域の人々との触れ合い」を理念とし、職員は折に触れこの理念に立ち戻り、自分たちのケアのあり方はどうか確認している。ホームの月間目標も立てて取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田井地区、自治会、近隣の3ヶ所から適したお付き合いを考え、田井地区の運動会にも参加させて頂いています。田井幼稚園の方からボランティアで来て下さり、ホームの夏祭りの行事に近隣の方に参加頂いたりしている。	職員の地域とのつながりを大切にしようという考えが段々と大きく実を結びつつある。地区の体育委員をして運動会に参加したり、地域の夏祭り、中学生の職業体験の受け入れや近所の挨拶もよくしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に入らせて頂きごみステーションの掃除当番もさせて頂いています。年に1回の自治会に参加しホームのお話もさせて頂いている。田井小学校・八浜中学校・玉野高校からも職業体験に来て下さっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議を開催し、さまざまな報告や話し合いが行え、ホームの清掃のボランティア等も手伝って下さいます。演奏会のボランティアの方に声を掛けて頂き実施できている。	家族会副会長、民生委員、包括支援センター職員で行事の振り返りから今後の課題について話し合う。家族会でうどん作りや今年は秋祭りに焼き芋を出すことも計画中。夏草が生い茂る頃の草刈りも計画している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃からホーム長、副ホーム長が行政に書類等を持って行き連絡、協力関係は築けている。また、月に一度相談員の方が2名来て下さり、入居者様と色々とお話して下さっています。	行政に提出するものはホーム長又は副ホーム長が持参して、市と出来るだけ接触するようにしている。又、半年に一度玉野市のG・Hが集まって市役所で開かれるG・H協議会に出席し、情報交換してホームに生かせるものは取り入れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体のマニュアルもあり、身体的な拘束だけでなく言葉による拘束もあるとグループで話し合う勉強会も行っている。	母体は多くのG・Hを運営する会社であり、マニュアルもきちんとしている。当ホームの職員間でも勉強会をしたり日々のケアについて話し合っているため、精神的身体的拘束はなく、利用者は自由に行動出来ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体のマニュアルもあり、言葉、身体、投薬等の虐待にあたる全体の勉強会をグループに分かれて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在では対象者がいないので行われていないが、そうなった場合は研修を受ける体制を作っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長が重要事項説明書を全てご家族と読み合わせを行い、都度不明な点を確認しながら進めている為、ご家族には十分な理解を得られている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社の相談窓口もあり、意見箱の設置もしている。また、本社からのご家族様アンケートも実施。ご家族さまからボランティアを進んで言ってきて下さり行事を行っている。	本社の企画による家族へのアンケートがあり、回答は直接本社へ送られる。各ホームへはこんな意見があったとフィードバックされる。ホームでは面会時や担当者が家族への手書き近況報告のやり取りの中で聞いている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社の方で職員アンケートの実施を行い、毎月一回の全体会議、ユニット会議を行い、スタッフの意見や提案を反映させている。	職員に対しても本社からアンケートがあり、ユニット会議でも多くの意見が出る。それらの意見や提案は出来る範囲で運営に生かし、職員が働きやすいホームになるようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホームで働く事に対して理解しているので、不安なく就業している。また、会社全体で向上心を持って働ける環境作り・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社からの資料もあるので、それを参考にしホーム内研修を月に一回行うようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会が半年に一度あり参加させて頂き、他ホームとの情報交換にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、ご本人様が困っている事や不安な事など傾聴し、安心して過ごして頂けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安なく利用者様を入所できるような説明を行い、いつでも相談に乗れるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様が必要としている支援を見極め、他のサービスが必要となった時にはご相談させて頂き、サービスの変更が出来るよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	散歩・洗濯物干しなど出来る事をスタッフと一緒にを行い、日々関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	頻繁に連絡を取り、家族会も開催しており、ご家族様とのコミュニケーションを大切にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新しく入居された方へは、他者との関係性も考え席などを配慮している。また、年齢が同じ方同士各ユニットまで会いに行けるようにしている。	新しく入ってきた利用者や家族からしっかり話を聞き、その人のバックグラウンドを知る。どのように馴染んでもらうかを考え、昔住んでいる所へ一緒に行ったりする。ホームの中では気の合いそうな人はユニットを越えて過ごしてもらう。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全入居者様参加のレクリエーションの実施。また、同テーブルの方少人数での役割の提供などを行い、利用者様同士の関わりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設・病院等に移られた時、ご本人様、ご家族様に対して「何かお困りの事等ありましたらいつでもご連絡下さい」と声掛けを行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様には、お話の中から意向を聞き出しています。ご家族様には出来る限りお会いして意向を聞くようにしている。	ただ漠然と質問するのではなく事例を取り上げて、「こんなことはないですか」と聞く等聞き方を工夫している。またしっかり密着することで利用者の目の動きや表情で何をしたいかや思いを把握するようにしている。	本人や家族とのコミュニケーションの仕方も考慮し、職員は本人や家族の会話や表情から感性豊かな心の通いができるよう一層の職員の研鑽を望みたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境についてご家族様や多方面からの情報の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング、申し送り、カンファレンス等で心身状態・有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本社から決められた用紙、やり方で月に1回のケアカンファレンスを行っている。また、ケアマネとの意見交換日記を作り、いつでも意見が出せる・聞けるようにしている。	家族に聞いたり本人の会話から聞いた事は、絶えずメモしてファイルする。様々な記録情報のまとめから新たに作成したものは家族も見えて納得してもらい、一つひとつ改善しているようにしている。	介護計画や記録の仕方や様式は本社で統一されているが、実際に記述する内容等は自由にできると思うので、ホームで起案する介護項目は客観的且つ具体的なものにしていけるよう改善したらどうかと思う。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本社から決められた用紙、やり方で週ベースのモニタリングを6ヶ月に1回行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの身体的機能、生活的機能を把握し、その時々生まれるニーズに対応して柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	田井幼稚園、保育園との交流会、ボランティアの方による演奏会などを行い、豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の大西病院と青井医院の訪問看護と連携を取り、ご本人様・ご家族様の希望を大切にしながらいつでも適切な医療を受けられるような支援をしている。	かかりつけ医には家族が受診についていくこともあるが、日常の受診はホームで付き添っていく。毎週火曜訪問看護が、隔週水曜には先生の往診、毎週木曜は歯科に診てもらっている。このように医療機関との連携はうまく取れている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜に訪問看護、隔週水曜に内科往診、毎週木曜に訪問歯科が来て下さり、適切な対応が出来るように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時に添書きの交換を行い情報交換に努めており、Drからの提案で入退院あり。医療機関との協働はできている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの意思はあり、ご家族様・病院と相談し出来る時は行います。	ターミナルケアはまだ経験はないが、基本的には医療行為がなくて自然に老衰する等家族の要望があれば最期まで看るつもりでいる。入所の段階でも家族には伝えている。利用者にとって最期の住み家となるよう職員一丸となって支え合う気持は持っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会は行っており、本社からのマニュアルも設置して対応可能にしています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練等を行っているが、地域との訓練ができていない為運営推進会議の議題に上げさせて頂き、今後は地域との協力関係を作っていく。	年2回実施している。近所の人との良好な関係ができつつある。近所の人に協力を呼び掛けたり、消防署に立ち合ってもらってホームの実情を知ってもらう等、よりしっかりとした対策が取れるようにする。	近所の人が万一の災害の時に協力してくれるよう、運営推進会議で議題にして実際の避難訓練を実施してみるのが良いと思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お名前の呼び方についても、ご本人様・ご家族様の希望をお聞きし、お名前を呼ばせて頂いており、一人ひとりの（人格を尊重し、言葉掛けや対応に努力している。	利用者の呼び方については家族に確認して行っている。ちゃんと呼んで欲しいという希望には応じている。トイレ誘導は個々のパターンを把握できているのでそっと誘導する。立位可能な人は外で待つようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症が進み自己決定が難しくなってきたが、一人ひとりに合わせた個別ケアの対応を心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お部屋で過ごしたい、隣のユニットに遊びに行きたい等一人ひとりの希望に添えるよう心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、ご本人様が着たい服を選んで頂いたり、お化粧をされる方にはお手伝いをさせて頂いたり、ご本人様のご希望にて支援させて頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下拵え、食後の下膳、お盆拭き等一人ひとりが出来る事の役割の提供も行っている。	メニューは本社から送られてくる。これらを基本に材料はこちらで注文して買っている。下ごしらえやお盆やテーブル拭き、下膳等できることは手伝ってもらっている。殆んどの人が箸を使ってゆくりと自分で食べられる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、管理日誌を毎日つけており、全スタッフが把握して支援できるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必ず行っている。不可能な方は1週間に1回の訪問歯科で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居時、紙パンツ+パット使用だった利用者様に自立に向けた支援を行い、昼夜とも定期的にトイレ誘導の実施。結果日中は布パンツに変更でき、夜間も布パンツに念の為にパット使用になり、下着・パット内での排尿がなくなり、誘導しなくても自分でトイレに行かれるようになった。他者の方々の自立に向けた支援も行っている。	トイレで便器に座って排泄する事を基本としている。紙パンツから夜はパットを使うものの昼は布パンツになった利用者もいる。歳と共に介護度が高くなっているが、出来る限り現状維持したいと考える。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	去年、"きなこ牛乳"についての事例研究を発表し、とても良い反響を得た。引き続き"きなこ牛乳"の提供を隔日で行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回隔日に入浴して頂いている。季節感を感じて頂く為に入浴を工夫している(ゆず湯)(入浴剤)等。	南北それぞれのユニットに浴室があり、週3回月水金は女性、火木土は男性に分けて入っている。5月には菖蒲湯、冬至には柚子湯等と季節感を味わってもらおう。又、一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方には温かい飲み物の提供やお話等リラクゼーションを行い、時間を気にせずゆっくり過ごして頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを作り、一人ひとりの薬の作用や副作用の把握が出来るようにし、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が自分の仕事とって頂けるような役割の提供を行い、普段はテラスで3時のオヤツをみんなで食べて頂いたり、レクリエーションを行い、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々のドライブ・行事での外食等の支援を行い、大きな行事にはご家族様も参加して頂いている。	初詣、花見、母の日の食事等みんなで出掛けている。日曜日は入浴がないので深山や渋川等へドライブに行き、気分転換を図っている。又、近くの道を散歩して、生花に使う花を摘んだりすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは金庫でお預かりさせて頂き、お金を持っていないと不安になられる方の対応としては、ご本人様(ご家族様)のご希望により小銭などを持って安心して頂けるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い等ご自分で書ける方には毎回書いて頂き、ご家族様からお返事が来る事もある。また、電話希望があればご本人様に掛けて頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルを3つに分け、気の合う方同士一緒に過ごして頂いている。また、季節感を感じて頂く為ホールに入居者様とスタッフが一緒に作った貼り絵や塗り絵を毎月飾っている。	玄関事務室を中心に南北ユニットに分かれているが事務室はガラス張りによく見渡せる。天井が高く広い天窓で明るく気持ちが良い。ちぎり絵、習字、生け花もあり安らく。利用者同士の交流も考えたテーブル配置にしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでうたた寝したい方はして頂いたり、仲の良い方同士でテレビを見られたり、思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・タンス・テレビ台は備え付けですが、その他はご本人様が使い慣れた物をお持ち頂き居心地良く過ごして頂いている。また、昔着られていたお着物等もお持ちになって頂きいつでも出して見れるようにしている。	利用者の一人は、居室の窓から自宅や近くの竹藪も見えて心が落ち着くようだ。昔からの懐かしいアルバムを持って来ている人は、説明しながら見せてくれた。家族の手紙やアートフラワー等好みの物を置いている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全居室にナースコールを設置しており、いつでも押せるようにしている。夜間は夜光灯があるので危険なく歩きやすくしている。		